

別記様式

議 事 録

会議の名称	岩倉市地域福祉計画推進委員会
開催日時	平成 29 年 6 月 27 日（火）午前 10 時から正午まで
開催場所	市役所 7 階 第 1 委員会室
出席者 (欠席委員・説明者)	野口委員長、山田委員、浅田委員、小笠原委員、関戸誠委員、関戸八郎委員、山口委員、尾関委員 欠席委員：河村副委員長、馬路委員 説明者：健康福祉部長、福祉課長、福祉課統括主査、主任 岩倉市社会福祉協議会事務局長、主幹、主任、主事補
会議の議題	(1) 第 1 期岩倉市地域福祉計画の推進について (2) 第 2 期岩倉市地域福祉計画の策定について
議事録の作成方法	<input type="checkbox"/> 要点筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
会議に提出された資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・(資料 1) 岩倉市地域福祉計画推進委員会委員名簿 ・(資料 2-1) 市民計画の推進 ・(資料 2-2) 岩倉市地域福祉計画 ふりかえり表 ・(資料 2-3) 岩倉市地域福祉計画 市民計画進行状況表 ・(資料 3) 「いわくらあんしんねっと」の推進について ・(資料 4) 平成 29 年度いわくら福祉市民会議 事業予定表 ・(資料 5) 平成 29 年度岩倉市地域福祉計画推進年間スケジュール ・(資料 6) 第 2 期地域福祉計画策定の経緯と方針 ・(資料 7) 第 2 期岩倉市地域福祉計画 策定方法及びスケジュール ・(資料 8) 中間報告書 ・(参考資料)：市民会議準備会（6 月 25 日実施）配布資料
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0 人
その他の事項	

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1 あいさつ

健康福祉部長、野口委員長よりあいさつがされた。

2 議事

議題（1）

平成 28 年度に実施した活動内容（いわくら福祉市民会議）について資料 2 により事務局より報告がされた。

委員長：第 1 期の計画は、少々欲張った計画であった。岩倉市全域で目標を作り行動に移してみましようというのが課題だった。市と社協の計画は、それぞれ市民の活動をバックアップするための支援計画という性格である。市民会議は有志を募り、どんな問題意識でどんなことがしたいのかを聞いたうえ、4 つの部会を作った。項目を出し、実施していく形式をとった。すべて実施することが望ましいが、ひとつでもふたつでも具体的に実践できるものをやるということで、年度計画を作り実施してきた。評価○や◎が増えることが願いだが、場所や機会、プログラムはいろんな形で展開できてきた。岩倉市の文化をカルタにするという発想、それをサロンで実施するというのは面白い。第 1 期は意欲満々だったがすべてはやれていない。

委員：年度計画がある。新しいことを始めたこと自体、少しでも市民を取り込んだことに意味がある。

委員長：様々な繋がりが作られている。子ども、親子で参加というプログラムもできた。当初は岩倉市の高齢者に対しての取組が強く出ていたが、案外いろんな世代が参加する取組も出てきた。

委員：4 年やってきて、当時地域で活動していなかった方が、メンバーとして関わってきた。自分たちでやれることをやるという意識づけができた。今後は年齢もあり、引き続きできることの精査と世代交代も必要かもしれない。

委員長：市民会議の活動は、参加者の福祉でもある。参加により新しい繋がり、地域での役どころを認識してもらうということは見えてきた。第 2 期ではもう一步進んだ提案が出ている。地域にデビューすることが自分の生活を豊かにしていく。デビューや活動の機会を多様に作っていくことも計画の課題だ。

委員：昨年まで市民会議の活動を知らなかった。フォーラムの案内を受けて行って見て、メンバーや内容が分かった。カルタの取組も素晴らしい。地域のサロンに参加しているが、フォーラムに行ってから自分のできることをやってみたいと防災や認知症など取り上げたほか、婦人会で非常食についてもやった。男性の参加者は少なく、知り合いばかりだが、皆さん楽しみにしており、活性化されているので、時間があれば携わるのもいいことだと思う。市民会議のメンバーがはつらつとやっているのもよい。

委員長：残念ながら、全市的に活動するということの広がりを感じている。第 2 期計画は大胆に地域を狭めてみようかと思っている。小地域で、そうした活動が見える

ような仕組みづくりができないか。項目もあれもこれもになりすぎた反省もある。

委員：資料 2-3 の表の◎と (◎) は具体的に取り組んだという意味か。

委員：◎は現に取り組まれている、もしくはこれまでに取り組んできたということだ。(◎)は他の部会で似た取組が行われており、事業としては達成しているということだ。

委員：同じようなことをやっていたということか。

委員長：項目を目標にはしたが、活動となるとできることから実施することになる。縦割りではできないため、項目に縛られすぎず、共通した課題を拾っていくと事業が重なることもあった。

委員：取り組んだ年度と取り組みがない年度がある。完了したということか。

委員：完了というよりも、他の事業にウェイトを置いたということだ。

委員長：活動がどういう効果を生み出したかの効果測定は難しい。地域福祉計画を推進していくと、どのくらい住みやすくなり定住に繋がったか、参加者がどう感じたかなどの効果測定という宿題を抱えているといえる。

平成 28 年度に実施した活動内容（いわくらあんしんねつ）について資料 3 により事務局より報告がされた。

委員長：第 1 期の地域福祉計画は、いわくら福祉市民会議といわくらあんしんねつが目玉である。岩倉市は非常にコンパクトだが“顔の見える連携”として専門職や民生委員など地域の中で活動している人が連携していくことが必要だとして、うまく形作っていく構造を考えてきた。“顔の見える連携”は、本来だと分野を超えていくことも必要だが、第 1 期計画は分野別の繋がりを作っていこうと試みた。専門職などを繋げていくことは難しいが基礎はできてきたのではと感じている。

平成 29 年度に実施する活動予定内容（いわくら福祉市民会議）について資料 4 及び 5 により事務局より報告がされた。

委員長：地域福祉計画の難しさは、歩きながら考え、また参加者も色々と変わるということがある。逆に言うと楽しさでもある。平成 29 年度は第 1 期の最終年である。部会を次に繋げるのかどうかも今後議題になっていく。今年度の予定として承認してもらえればと思う。また市民に知ってもらえるような広報が必要になる。

委員：第 1 期の最終年で、やろうとしていたことが、最後にそれに向けてやれるかということが年間の事業予定のはずである。たとえば、交通安全に関して啓発を 4 年やってきて、5 年目も啓発でいいのか。どれだけ効果があったのか。こと安全安心については、もっと効果があることをやらないと生ぬるい。また、地域・コミュニケーションに関する事業について、顔が見えることは大事だが、わざわざ会わないとできないのか。会うのを待っていたらコミュニケーションできない。普段から連絡を取り合い、直接会ったときにツーカーになるという取り組みもいいのではないか。

委員長：“顔の見える連携”は、システムを作るということでもある。地域福祉協力者団体

部会で、いろんな団体がどんな活動をしているかのリストアップもできている。それをどう使って戦力にしていくのかというシステムである。少なくとも第2期計画策定の共同事務局会議の議題として受けていかないといけない。難しいが次の段階としてやらなければいけない。

委員：公園で遊ぼう事業は、公園で遊ばなくなったのはなぜか、やってみてどうだったのか、人数は時間帯は良かったのかなど、子どもたちの動向や足りないところを補って安心して遊べるような調査発表をして、事業化するということがよいのではないか。

委員長：どうしても市民会議としては自分たちがやりたいこと、できることからやることになる。どちらかという事業展開を中心に取組まれた。その反省もあってどういう効果を上げていかなければならないかという視点を持たなければならない。それには材料が必要だという指摘であった。第2期計画の策定に向けては重要な視点である。

委員：市民会議の取組が、直接的すぎるのではないか。それよりも市民に動いてもらうような働きかけを仕掛けていかないといけないのでは。いろんな人をネットワークで繋ぎ、どう動いてもらうかを検討した方がよいのではないか。

委員：あいさつ運動も日時を決めてやるより、たとえばキャッチコピーを決めて岩倉市全体でこういうあいさつをしましょうなどという呼びかける方がいいのではないか。

委員長：第1期計画の中で、市民が自分たちの地域という意識をどう持ってもらうか。そのために懇談会も立ち上げやってきた。この計画を推進するときの方法論は何かというところによりやく直面している。直接行動するのもよいが、提案型という方法論も必要でないかという意見があった。暗中模索だが、協力団体の情報やどんな仕掛けで人は動いてくれるのかというシステムの検討が必要である。推進の方法論の検討が第2期計画の動きにはないといけない。

委員：第1期計画の市民会議の部会に属している。部会で取組んだことは、まずは岩倉市を知ろうと市内を歩き、普段見ることができない仏像や旧跡などを見て回った。その集大成として皆さんに伝えたいということで、カルタを作ることになった。ちょっとしたキャッチコピーで、岩倉市を知ってもらうことができる。歩いただけだとただの遠足だが、それをまとめることで皆さんに伝える。少しずつ福祉に対して進んでいるのではと思っている。次はカルタを広めようということも第2期計画からの課題になると思う。決して止まっているわけではなく、地域の良さを知り、福祉に対して次は何をやるかと進んでいる。

委員長：地域の取組に関わる人の歩みはそれぞれで歩調を合わせるの難しい。地域福祉計画に岩倉市が手を付けるのも5年かかり、第1期計画でここまで4年、実に10年仕事であった。すぐさま納得したところには到達できないかもしれないが、効果や方法論は大切な問題であるので、第2期計画の中にどんな方法を反映させるのかは検討したい。

委員：手段ばかりに力を注ぎすぎではないか。手段を変化させ、すぐに動くことが大切である。延々と手段の検討になっていないか。

委員長：保健・医療・福祉部会からカルタ制作が出てくるとは思わなかった。創意工夫で編み出した一つの方法だ。時間はかかるがあつということが生み出された一例である。

委員：この計画自体が全市的な取組が書かれている。地区で使えるツールや情報を用意して、使ってもらう方がいいのではと思う。

委員長：地域福祉計画の中にいくつかツールを提案しておいて、地区ごとに選択していくということである。

委員：たとえば、地区で防犯の講演会に警察を迎えて実施したい場合、この計画を通じて情報があれば開催しやすいのではないか。

委員長：区長会等でもいろいろ行事は立てているが、必ずしもこの計画と結びついていない。その辺りから、民生委員、区長会、全市の中のボランティア団体の活動等の結びつきが生まれるとよい。

委員：第1期計画の市民会議もメンバーが選ばれた経緯があると思うが、新しいメンバーを加えていかないと、今日議論されたような新しい発想は生まれない。誰がアドバイスするのも考えないといけない。

委員長：計画も5年間取り組むといろいろ検討事項が出てくることも含め、課題が出てくる時期に来ている。取り組んできたが必ずしも満点はつけられない。

議題（2）

第2期計画の策定に向けて、平成28年度に実施した策定の中間報告（アンケート、地区懇談会）について資料8により事務局より報告がされた。

委員長：前回、アンケートをすることを承認され、実施した。本日、中間報告がなされた。また、小学校区ごとに意見交換をした。

まだ仮の考え方だが、岩倉市がより良くなっていくためには、豊かな活動があり、それに参加する方が大勢いて、参加者自身が様々な繋がりを持っている。繋がりが豊かになっていくことが市全体の幸せ感を作っていく。幸せな状態で暮らしていくまちになっていけば、ここが安全安心なまちになっていくだろうという大きな網をかけている。不足不満はあるが、市や国がセーフティネットを作るのはもとより、今の日本が置かれている状況からすれば、地元、自分の住んでいる足場は、住んでいる者たちで固めていくという方向性が必要だろう。足場とは、少なくとも様々な活動できる場所や機会があり、たくさんの人や組織との繋がり、いわば包囲網を作っていくことが第2期計画の大きな一つの柱になるのではないかとということでアンケートもした。足場全体は見えにくいので、小さな単位で考えていくときに、行政区や社協の支会という提案もあったが、小学校区で想定し分析をしてみようということで実施した。多少地区ごとで形が違うが、まだまだ伸ばさないといけない部分も同じように持っていることも分かってきた。小学校単位で地区懇談会も実施し、その結果どんな意見要望が出てきたかという段階に来ている。

第2期計画の策定に向けて、6月25日（日）に実施した策定に向けた市民会議準備会、策定の経緯と方針、スケジュール等について資料6と7と参考資料により事務局より報告がされた。

委員長：第2期計画では考え方をもう少し抽象化した形で提案してみようとしている。まだ案だが、幸せと安心のまちというキャッチフレーズで進んでいる。平成28年度からアンケートや地区懇談会を実施するなどすでに策定作業に入っている。

地域福祉のベクトルがどこに動いているか。地域共生社会というキーワードが出てきている。行政は行政、社協は社協というのではなく総力戦だ。様々な地域資源、社会資源を投入しながら、それぞれの役割を認識しながら、それぞれが機能しながら、それぞれの持ち場をしっかりと固めながらも繋がっていく。セーフティネット・ソーシャルワーク支援×フォーマルサービス×インフォーマル・活動＝地域共生社会と資料5にあるが、多くを掛け合わせている、そうしないと共生社会はできあがっていかない。そういう時期に日本は来ているのではないか。それを念頭に、第2期計画をどうしていくのかという議論をしている。皆さんのアイデアが必要な時期なので、推進委員会と事務局が議論する場を持ちたい。提案できるものがまだできていないが、それまでは資料を参考に岩倉市に合うかどうかなど意見をいただければありがたい。

市民会議準備会（6月25日開催）に63人が集まり、若い人も含め熱心に議論していただいたことは、地域の問題についていろんな方が関心を持ち始めているという感触を得た。できればプラスアルファの参加者が欲しい。100人会議をやれば中学生もいたりする。小学校高学年から集めて意見をもらった事例もある。岩倉市でも、いつかできたらいいと思う。今回、足がかりとしては良かった。

委員：2025年問題というものが言われている。後期高齢者が増え人口は減っていく。4分の1以上が65歳以上となる。それを前提にすると、福祉、医療、お互いの支え合いが重要になる。それを念頭に置いた計画を作っていくことが必要だ。

委員長：念頭に置く必要はある。ただし、高齢者が支援を受けるばかりではなく、地域の中で歩ける限り、車いすで動ける限り地域の役に立っていただかないといけない社会になっている。セーフティネット自体は自治体がしっかりと作ってもらわないと困るが、地域包括ケアは岩倉市の計画において頭出ししているので、市は基盤整備をやってもらわないと困る。議論はしてきている。

委員：自身の主催NPO団体で小規模多機能自治に関する講演会をやる。地域自治のこれまでとこれからということをやるので乞うご期待。

委員長：いろいろな動きと関係づけていくことが大事である。

委員：計画策定に当たり時間がないのが行政のネックになる。時間切れで議論はやめておこうとしないようにしてほしい。いいものを作るためには議論が必要である。スケジュールが示されているが、必要があれば、この場で検討し、変更を加えていくこともあってよい。妥協案にならないようにしてほしい。岩倉市に合ったものを作らないといけない。この場に若い人がいないことも踏まえて検討を進めてほしい。

委員長：地域福祉計画というのは、他の行政計画とは違って、作って終わりではなく、作ってはみたもののできることでできないことがあり、変えなければならぬこともあるということが重要になる。推進過程で紆余曲折して変化していくことがあり、そうなることが自然の流れである。ただ、計画がないと推進されない。第1期計画は全市的な項目を盛り込んだ。それは、策定過程において市民から多くの要望が出ていたものをその時点で削るわけにはいかなかったということもある。ただ、実施となるとそこまでいかなかった。地域福祉計画はそういうことが可能な計画であることを念頭に今後、議論いただきたい。

委員長：他に無ければ、会議を終了する。

事務局：次回は10月頃開催予定。